

令和4年度学校運営連絡協議会実施報告

東京都立東村山高等学校
統括校長 富川 麗子

1 組織

- (1) 都立東村山高等学校 学校運営連絡協議会（全日制課程）
- (2) 事務局の構成 副校長1名＝事務局長、学年主任3名 計4名
- (3) 内部委員の構成 校長、副校長、経営企画室長、主幹教諭（教務担当）、主任教諭（生活指導担当）、進路指導主任、保健主任 計7名
- (4) 協議委員の構成 学識経験者、東村山高等学校PTA会長、東村山市立久米川東小学校長、東村山市立第五中学校長、東村山市教育委員会、東村山警察署員 計7名

2 令和3年度学校運営連絡協議会の概要

- (1) 学校運営連絡協議会（第1～3回）の開催日時、出席者、内容、その他
 - 第1回 令和4年6月16日（木曜）内部委員7名、協議委員4名
 - ① 協議委員委嘱、委員紹介、評価委員の選出
 - ② 学校概要 学校経営報告・学校経営計画について
 - ③ 各分掌から昨年度の学校運営連絡協議会の課題
 - ④ 本校の現状と課題等説明、意見交換
 - 第2回 令和4年11月24日（木曜）内部委員7名、協議委員6名
 - ① 前半の教育活動の状況、学校評価アンケート等の実施計画
 - ② 各分掌からの報告、協議委員からの教育活動に対する意見
 - 第3回 令和6年2月10日（金曜）当日、雪のため書面開催
 - ① これまでの教育活動に関する報告
 - ② 学校評価アンケートに関する報告
 - ③ 学校運営に関する提言、協議委員からの教育活動に対する意見
- (2) 評価委員会の開催日時、会場、出席者、内容、その他
 - 第1回 令和4年6月16日（木曜）内部委員3名、協議委員2名
 - ① 学校評価の基本方針の確認、昨年度の学校評価結果の分析・考察
 - ② 今年度の学校評価の実施に向けた検討
 - 第2回 令和5年2月2日（木曜）
 - ① 評価報告書（原案）の検討

3 学校運営連絡協議会による学校関係者評価

- (1) 学校評価の観点
 - ① 学校生活 ② 学習指導 ③ 生活指導 ④ 進路指導 ⑤ 特別活動・部活動
 - ⑥ 健康指導・安全指導・教育相談 ⑦ 体罰防止 ⑧ エンカレッジスクール（1年生のみ）の8観点で実施する。
- (2) アンケート調査の実施時期・対象・規模 (昨年度の回収率)

・11月	全校生徒	対象：553人	回収：525人	回収率：95%	(88%)
・12月	保護者全員	対象：553人	回収：337人	回収率：61%	(44%)
・12月	地域・住民	対象：16人	回収：人	回収率：%	(%)
・12月	教職員	対象：44人	回収：44人	回収率：100%	(93%)
- (3) 主な評価項目
 - ① 学校生活 ② 学習指導 ③ 生活指導 ④ 進路指導 ⑤ 特別活動・部活動
 - ⑥ 健康指導・安全指導・教育相談 ⑦ 体罰の防止 ⑧ エンカレッジスクールの8観点について、生徒は29項目、教員・保護30項目、地域21項目で調査を行った。
- (4) 評価結果の概要
 - ① 学校に対する満足度
生徒は、「東村山高校に入学してよかった」が1年生89%、2年生86%3年生83%、全体86%であった。昨年度は全体80%であったことから本校に入学してよかった生徒は増加している結果となった。また、「学校生活は楽しく、充実していると感じる」については生徒全体約86%で昨年度の78%から8ポイント増加しており、東村山高校に満足して通学している傾向は上昇していると考えられる。
保護者についても、「東村山高校に入学してよかった」が1年生93%、2年生97%、3年生91%、全体94%で、昨年度の93%と比較しほぼ横ばいである。また、保護者に関しては、毎年高い評価となっているため、本校の教育活動への期待度が増していると考えられる。「学校生活は楽しく、充実していると感じる」は1年生93%、2年生で88%、3年生で91%、全体91%であり、昨年度より3ポイント増加している。さらに、「授業・学校行事・部活動などで、たくさんの思い出ができています」に関しては、生徒が82%、保護者82%となっている。昨年度の生徒63%、保護者68%からは大きく上昇しているが、コロナ禍で各行事が制約されたことが原因であると考えられる。次年度の行事の在り方も検討すべきである。
教員は「東村山高校に入学してよかった」91%、「学校生活は楽しく、充実していると感じる」89%と回答しており、生徒と保護者の期待に応えられるよう教育活動に臨んでいた。「授業・学校行事・部活動などで、たくさんの思い出ができています」に関しては72%と、制約のある中、満足できる体験が提供できなかったと考えている。
 - ② 学習指導に対する満足度
生徒は、「授業はわかりやすく、先生方は教え方や教材を工夫していると思う」では、1年生82%、2年生82%、3年生87%と教員はわかりやすく丁寧な指導を行なっている様子が見て取れる。
一方保護者は、1年生74%、2年生67%、3年生73%と、昨年全体が81%の数値から厳しい評価をいただいている。改善に向け、指導法等の検証が今後必要と考えられる。
「進路を実現するための科目が充実している」生徒83%、保護者80%、「成績の出し方は、ていねいに説明さ

れている」生徒 91%、保護者 79%と、生徒に比べ家庭への周知を充実させる必要を感じる。「授業やテスト勉強など、積極的に取り組んでいる」生徒 67%、保護者 65%と勉強に取り組む環境や方法、内容などを検討する必要がある。現在、本校では、朝学プロジェクトチーム、寺子屋（放課後学習）プロジェクトチーム、特進クラスプロジェクトチーム等を立上げ、次年度への改善について検討を積重ねている。

③ 生活指導に対する満足度

「身だしなみを整えたり挨拶をしたり、時と場合に応じた身なりと行動ができる」については、生徒 87%、保護者 84%、教員 68%であり生徒・保護者に比べて、教員の数値が若干低い結果となった。スカート丈等の服装や化粧につて、指導をしても繰り返されるのが原因である。「家庭や学校で、相手の立場をふまえた適切なコミュニケーションができています」生徒 93%、保護者 91%、教員 93%と高く、昨年度とほぼ同様の結果であった。ただし、自由意見にもあるように、人間関係を悩んでいる生徒もいるため引き続き指導が必要である。「先生方は、生徒の悩みや相談に親身にに応じてくれる」生徒 92%、保護者 80%、教員 95%と高く、教員は内容によって、スクールカウンセラーやユースソーシャルワーカーとの連携を図っている。「自転車マナーなどの登下校の安全指導が行われている」については、生徒 84%、保護者 81%、教員 86%であるが、近隣からの通報等があるため、継続した指導を行なう。「服装や頭髪指導はしっかり行われている」については、生徒 91%、保護者 88%、教員 86%であった。自由意見にもあるように、生徒・保護者の中にも頭髪指導が十分とは言えないという意見もあり、地域の方たちから見ると女子生徒の短いスカートなどが高校生としてふさわしくないとと思われる意見があった。

④ 進路指導に対する満足度

「進路について、自分なりに考え対策している」、「進路講話や学年の進路指導などは、自分の進路を考える上で役立っている」については、総合的な探究の時間でのキャリア教育を進めている成果もあり、生徒、保護者、教員とも 90%近い数値である。進路指導部と学年団が連携して 1 年生から将来の進路実現のため、キャリア教育を積重ねている結果といえる。「担任や進路指導部の先生は、自分の進路に関する相談に乗ってくれる」について、生徒 85%、保護者 82%、教員 100%となっているが、進路実現のため教員が面接指導等を根気よく実施しているのが、全ての生徒、保護者に伝わっていないのが残念である。「進学応援型」を掲げる本校は都内の他のエンカレッジスクールの中で進学率は高い方であるが、指定校の開拓や、生徒の多様な進路希望により柔軟に対応する進路指導が求められる。

⑤ 特別活動・部活動に対する満足度

「ホームルームは、居心地がよいと感じる」に対する満足度は、生徒 87%、保護者 79%である。昨年度の生徒の満足度が 75%だったことから、生徒にとっては学習やホームルーム活動をする上で良好な場所を提供できていると考えられ、保護者はそういった子供の様子を感じているようである。ただし、アンケートにもある様に、子供が学校のことを話さないこともあり保護者は判断に困る質問だったようである。「コロナ禍で制約の中、学校行事は楽しく充実している」について、生徒 86%、保護者 71%、教員 73%であった。今年度は、体育祭、文化祭、修学旅行とコロナ前の活動が復活した。昨年、保護者の 47%から大きく上昇しているが、保護者が参観できなかったため生徒の学校での活動が伝わらなかった影響と考えられる。

「部活動に積極的に取り組み、充実した活動ができています」に対する満足度は、生徒 69%、保護者 67%、教職員 80%で昨年度と同様高水準を維持している。今年度は、「Sport-Science Promotion Club」の指定をバドミントン部とビームライフル部が受け、活動時間等効率の良い練習を行っている。さらに、改築工事も終了し、グラウンド使用に伴い外部活も充実を図っていききたい。

⑥ いじめなどに対応した教育相談・健康指導・安全指導に対する満足度

「悩みやいじめなどを相談するカウンセリング等の教育相談が充実している」「先生方は、生徒や保護者の意見を聞くことに努めている」についての満足度は、生徒 87%、保護者 83%で昨年度から横ばい状態であるが、教員はスクールカウンセラーやユースソーシャルワーカーと情報共有を図っている。生徒に対して「いじめアンケート」を年間 3 回実施し、いじめの兆候を早期に捉えようとしていることも理解が進んでいると考えられる。

また、「体罰や暴言を受けたり、見たりすることは無い」についても、生徒 89%、保護者 91%と高く、学校全体での取り組みが見られる。ただし、アンケートに「おまえ」等の呼びかけをする教員もいると意見をいただいているため、組織的に改善する必要がある。

⑦ エンカレッジスクールについて（1 年生のみ）

「ICTを活用し、授業や学習の指導が行われている」……生徒 83%、保護者 85%、教職員 88%
「30分授業は、集中して勉強できる」……生徒 92%、保護者 89%、教職員 84%
「2 人担任制で、きめ細やかな指導が行われている」……生徒 87%、保護者 89%、教職員 89%
「「学び直し」で、基礎力が身に付いてと思う」……生徒 87%、保護者 86%、教職員 53%
「体験学習は、充実している」……生徒 90%、保護者 89%、教職員 84%
「体験学習で、新しい友達や市民講師の先生と交流ができた」……生徒 86%、保護者 85%、教職員 84%

上記 6 項目は、生徒・保護者の満足度が高く、今後も充実させていく必要がある。「学び直し」については、教職員の数値が低く、成果がでていないように感じている教員が多いことが伺える。今年度のプロジェクトチームをきっかけに、内容や実施方法などを検討し、改善すべきと思われる点を意識して進める必要がある。

(5) 評価結果の分析・考察

今回は、学校運営連絡協議会・東村山第五中学校・東村山市役所（社会教育課・市民相談交流課・防災防犯課）にご協力をいただいた。例年ご協力をいただいていた、東村山市社会福祉協議会、近隣保育園等に関しては、コロナ禍で連携が取れないためアンケートに協力を得られなかった。

アンケート結果を見ると、多くの項目で高い評価をいただいているが、地域の方との連携や学校行事等、学校を見る機会が減少したため評価が下がっている。また、エンカレッジスクールの内容については、広報活動不足か理解するのに難しい項目であった様子である。

自由記述を見ると、生徒たちによる挨拶、部活動が盛んな様子などをみて好印象をもっていただいている一方、通学時に歩道を広がって歩くことや女子生徒のスカートの長さなどに苦言を呈する意見もみられた。また、本校がエンカレッジスクールとして特徴ある教育活動を行っていることは十分に理解されているとはまだ言いがたい。引き続いて情報発信と地域の交流を進めていくことが求められる。

4 学校運営連絡協議会の成果と課題（委員からの意見を中心に）

(1) 東村山高校の存在意義

東村山高校は東村山市民及び地域の要望によって設立された都立高校です。学校設立の歴史的経緯に加え、約半世紀に渡り本校には東村山市及び多摩地域に根ざした学校として、また進学応援型エンカレッジスクールとし

て学び直しと進学応援が求められています。スクールミッションにあるように、「人類の発展と平和に尽くす青年の育成を目指し、次代の良き国民として、伝統と歴史を正しく認識し、新時代の開拓者、個性ある文化の創造者として活躍でき、自己の実現の努力を継続する資質を培う」を学校の使命とし、「他者（ひと）のために一歩先の自分へ」のスローガンの下、社会に有為な人材を育成する大きな目標に掲げられています。今後も地域との交流を一層深め、新校舎の下、存在感のある学校としての発展が期待されています。以上のような本校への期待を常に念頭においた学校運営が望まれています。

(2) 学校運営

令和4年度、校長先生も変り、新たな体制でスタートした1年ですが、「進学応援型エンカレッジスクール」である貴校では、「学び直し」の充実を図り、生徒の進路実現があげられます。そのために、きめ細やかな指導を行ない、生徒の進級、卒業を目指し、中途退学者・転学者の減少に努めて欲しいと考えます。また、少人数授業、習熟度別授業や朝学習、寺子屋事業をとおして学力向上、特別な支援を必要とする生徒に対する教育相談の充実をお願いします。また「学びの基盤推進指定校」「Sport-Science Promotion Club」としての取り組みをとおして学校の活性化を図ってください。引き続き、校長先生から学校経営方針を地域や、保護者、近隣の学校、行政機関に情報発信していただくことを期待します。教職員の方々には、一丸となって、校長先生の方針の具現化に向けた取組を引き続きよろしくをお願いします。

(3) 学習指導

エンカレッジスクールとしての「学び直し」を実現させて、進学等の進路実現につなげることが貴校に課せられた目標であり、学習指導はその中心になる教育活動です。アンケートの結果から、生徒たちは指導に関しては満足度が高く、エンカレッジスクールの特徴を理解してしっかりと取り組んでいることが分かります。しかしながら授業やテストへの取り組み状況の数値は決して高い数値とはいえないようです。まずは、学校での授業をしっかり受けることとともに、家庭学習習慣の確立を進める必要が考えられます。保護者との連携を深め、学ぶ時間を増やす工夫をすることが重要と思われます。まずは、落ち着いた学習環境の定着とともに、今後は生徒一人一人の状況に合わせた習熟度別授業や少人数授業、体験学習も含めた充実も一層進めていくとともに、多様化している進路に対応する学力向上への取組をお願いします。

(4) 生活指導

生活指導部や学級担任を中心とした教員全員の粘り強い生徒指導が続けられていると聞きます。また、授業を抜け出す生徒の対応など工夫されている結果、抜け出す生徒も減り、落ち着いた学習環境を確立しているといえます。朝の遅刻指導や頭髪指導など規範意識の醸成を図っていることなど、地味な活動が、学校の倍率等の高い評価に繋がっているところです。しかしながら、女子生徒のスカート丈、登下校時の歩行・自転車マナーなどについて地域の方たちの厳しいご意見も少なからず頂戴しております。生徒たちに地域社会の目を意識させ視野を広げさせる機会を増やし、マナーの大切さや精神的な成長を促す指導をお願いします。一方で生徒会や部活動などが行う地域との交流がここ数年、少ないように感じています。地域と連携を図り、貴校の生徒理解が進み、生徒達の社会性が高まればと考えています。

(5) 進路指導

進路指導部と学級担任を中心として1年次から進路講話や外部講師を招いての進路ガイダンスなどを行い、近い将来の自己実現に向けたキャリア教育を実践していることを聞いております。こうした指導の結果生徒・保護者から80%を超える満足度が得られていると考えます。また、進学、専門学校、就職と多様な生徒に対し一人一人丁寧できめ細やかな指導を行なっていると聞いています。1年生、2年生で望ましい職業観・勤労観を養い、自身の希望する進路に向かって取り組む姿勢を育む「キャリア教育」の充実を図り、「進学応援型エンカレッジスクール」の目標を達成するための進路指導の実施をお願いいたします。

(6) 特別活動・部活動の充実

文化祭や体育祭などの学校行事が3年振りに実施され、生徒たちが積極的に取り組んでいると報告を受けています。また、先輩からの引継ぎの無い中、生徒さんは準備や練習を重ねて発表を行ったようです。今後は、保護者や地域の方々の多くの参加を呼びかけ、生徒の成長につなげられるような開催ができることを期待しています。部活動については、令和4年度東京都から「Sport-Science Promotion Club」の指定をバドミントン部とビームライフル部が指定され輝かしい成果を残しています。また、ダンス部が3年振りに東村山市主催のイベントに、バスケットボール部、ライトミュージック部など活動が盛んな部活動が増えたと聞いています。部活動をはじめ、学校の活動へ積極的に参加し帰属意識を高め、さらに地域や社会に貢献しようという気持ちを育む機会となって欲しいです。今後もさらに充実した活動を展開していただくことを期待しています。

(7) 体罰防止などに対応した教育相談・健康相談・安全指導

アンケート項目に体罰や暴言等の項目を取り入れ早期対応を図っています。また、個別の支援が必要な生徒対応のため教育相談の充実を図っています。そのため、生徒・保護者ともに、高い満足度になっています。しかしながら、自由意見には「おまえ」等の発言が記載されているのは残念です。教員間で体罰や暴言が発生しない環境をつくり、学校としても未然防止、早期の発見と対応を進める必要があります。こうしたニーズに応えるように、ユースソーシャルワーカーやスクールカウンセラーとともに教育相談が行われていると聞いています。年々、支援を必要とする生徒の課題に対する教育相談の増加も考えられます。こうしたことをふまえ、より一層の教育相談機能の向上と、情報交換を密にした指導体制づくりに期待しています。

(8) エンカレッジスクールについて

東村山高校は平成22年度より「進学応援型エンカレッジスクール」に改編されました。2人担任制、30分授業、体験学習などエンカレッジスクールとしての特徴は、ほとんどの生徒や保護者のアンケート結果から高い満足度となっています。しかし地域の方々のアンケート結果を見ると、貴校がエンカレッジスクールであること自体が知られていない状況や、エンカレッジスクールという言葉は知っていても具体的にどのような点が他の都立高校と違うのかといった点がまだまだ知られていないという結果が出ております。生徒会や部活動が地域活動に積極的に参加していることで貴校の認知度は今後広がっていくと考えられますが、情報発信をさらに充実させ、東村山高校を理解していただけるよう努力していくことを期待します。

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項

(1) 教務部

- ① オンラインを有効的に活用している教科が増えた。振り返りや小テストに forms を用いることでデータの集約のスピードが上がっている。ただし、選択肢を用いた小テストのやり方次第では生徒の学力定着に活用できる可能性はあるが、現在は模索中である。

- ② 教育課程に関して大まかなめどは立った。次年度は教科書選定に向けて準備を進めたい。
- ③ 観点と評定に関して今年度は試行を繰り返しながら実施した。次年度にむけてブラッシュアップしたい。
- ④ 習熟度の編成を活用し、数学では1クラス2展開を2クラス4展開という形に変えてより上位層と下位層に
対してより手厚い指導ができるようになった。
- ⑤ 長期休業中の講習を実施したが、放課後学習に関しては寺子屋事業の活用となった。
- ⑥ 広報活動に関しては学校説明会や見学会、平日の学校見学会を実施したことで学校を周知することはできた。
その甲斐があり推薦倍率4.2倍、一般前期入試の応募倍率1.82倍とここ3年間で推薦、前期ともに一番高い倍
率となった。
- (2) 生活指導部
- ① 問題行動の抑止を主眼とした施策を推進する。
- ・1、2学期に引き続き、挨拶・服装指導、頭髪指導、遅刻指導、問題行動への対応を行った。今年度は近年少
ない傾向だった暴力行為による指導、飲酒による指導、喫煙・ライター等による指導が発生しており、改めて
それらに対する指導が必要である。また恐喝まがいの事案もあった。さらに窃盗被害が数件発生しており、臨
時に全校生徒に向け注意喚起を行った。さらに近隣施設の利用客や近隣住民から、登下校や施設利用のマナ
ーについての苦情が数件寄せられ、複数の教員で対応した。来年度は、より一層抑止することが必要である。
- ② 多彩な学校行事の展開と充実を期し、生徒会に対する支援を行う。
- ・グラウンド改修の為、府中市市民陸上競技場で体育祭を開催した。新型コロナ感染対策をしながら無観客での実施
であったが、大きな事故もなく充実した内容となった。
 - ・生徒会を中心とした文化祭等の企画運営を指導した。
 - ・引き続き、必要に応じて感染症対策を徹底し、安心・安全な行事運営を確保する。
 - ・特に文化祭は企画運営から参加まで、多くの生徒の主体性を促し、生徒の成就感、達成感を高めるとともに、
生徒の学校生活に対する満足度を上げることに重点目標を置く。
- ③ 部活動、校内外の諸活動の充実を図る。
- ・文化・スポーツ特別推薦を実施する部を核にして、全体的な意欲・活動の向上を目指すとともに、対外的活動
を奨励、支援した。
- (3) 進路指導部
- ① 年間45回のガイダンスや講演会、模擬授業を行った。1学年では職業理解を深めるため、職業に関する模擬
授業や分野ごとに働いた経験のある方によるガイダンスを行った。仕事の楽しい面ややりがいだけでなく、
大変なことや苦勞についても話を聞き、現実的な視点で考える講座を実施することができた。2学年では、具体
的な進路分野に関する理解を深め、志望動機や自己PRの書き方、模擬面接の基本的事項についても学習の機会
を与えることができた。3学年では、マナーや身だしなみ、コミュニケーションなど社会に出て必要なことや若
者サポートステーションの紹介や卒業後の相談先についての紹介を行った。
- ② 年間を通して3回の教員向け研修会を実施することができた。また、大学や専門学校の情報、進路指導に関す
る情報を3学年や国語科と共有し、職員会議でも提供した。今後は教員による面接練習の質を向上し、時代に合
わせた練習ができるように研修を行う必要があるかもしれない。
- ③ 2学年向けの看護・医療系の小論文講座を実施し、4名が参加した。専門学校のチャレンジプログラムは前期
・後期とも紹介したが、条項申込者は出なかった。
- (4) 保健部
- ① 令和4年度定期健康診断を円滑に実施でき、事後措置も速やかに実施できた。令和5年度の定期健康診断は
内科4/13、20一斉健診4/20、心臓結核検診4/17で確定した。腎臓検診、臨時医師看護師等未定分について調
整を続ける。
- ② 入選に関わる清掃計画通り実施できている。前期・後期入選時も計画通り実施する。ロードレース大会におけ
る救護、美化活動も体育科と連携し行う。年間を通じて、生徒美化委員活動からゴミ分別や減量化に向け、取組
を継続できた。次年度も引き続き取り組む。
- ③ 学校活動を継続させるために、感染予防としての取組(Formsによる健康観察、消毒薬・石ケン等の管理、保
健だより等での啓蒙活動)を継続できた。次年度に向け、罹患状況等の実態把握を速やかに行えるシステムを構
築できるようデジタル活用化を目指す。
- ④ 年間を通じて、教育相談委員会2回開催、SC、YSW等との連絡会を実施する等、課題のある生徒の情報共有を
密にできていることで、共通理解し役割を明確にした生徒の対応ができた。また必要に応じて、学校医等外部と
の連携を速やかに行い専門的立場からの助言から具体的な取組を協議できた。

6 「学校が良くなった」と考える協議委員の割合

- (1) 協議委員数 7人
- (2) 学校がよくなったと答えた協議委員の人数

そう思う	多少 そう思う	どちらとも 言えない	あまりそう 思わない	そう 思わない	わからない	無回答
5	0	2	0	0	0	0

7 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

【実績】 職員会議 なし 企画調整会議 なし

【成果】 特になし

8 その他

特記事項なし